

本稿は、8月28・29日に行われた自治労連第44回定期大会での代議員発言について、加筆・修正したものです。

各地で学習と交流すすめ 処遇改善めざす非正規のとりくみ

自治労連埼玉県本部

私はA市で働く会計年度任用職員フルタイムの保育士です。臨時保育士として22年、会計年度任用職員として3年目となり25年仕事をさせていただいています。非正規だけで組合を立ち上げてから11年が経ち、同時期、埼玉県本部の非正規公共協、正しくは非正規雇用・公務公共関係労働組合協議会の立ち上げから参加させていただいています。今日は私たちの取り組みをお話しさせていただきたいと思います。

県内のいろいろな職種に仲間が集まって学習交流する2つの集会

まずは自治体で働く非正規職員と公共分野の労働者が集まり、情報交換をし、知らせたい、繋がっていききたいという思いで毎月1回幹事会を開催していきました。みなさんの自治体でも同じ動きがあったと思われませんが、公務員が削減され正規職員がなかなか増えず、置き換えられた非正規職員が増え、委託や指定管理に移管された公務職場が増えてしまいました。

幹事会やいろいろな集会や学習会に参加する度、同じ仕事をしているのにこんなにも格差があること、委託先などで低い条件で働い

ている仲間がいることに納得できない気持ちが募っていきました。どうしたら改善していいのかを考え、更にたくさんの学習会や集会に参加し学んでいこうと思いました。毎年9月には自治研集会の位置付けでもある「学べ！つなぐ！元気集会」を開催しています。タイムリーな内容で学習をし、交流することで元気になって、それぞれの職場に戻っていただきたいという思いで集まる集会です。

そして、毎年1月に開催する「芽吹き集会」。寒い冬を超えた木々が春になり芽吹いて花を咲かせたいという思いを込めて名付けた集会です。春闘に向けてみんなで意思統一をして自分たちの課題を知り、自分たちの処遇改善を目指していきます。この大きな2つの集会は、県内のいろいろな職種に仲間が集まって学習交流できる場として定着しています。

会計年度任用職員、委託・指定管理職場、それぞれにあわせて学習会を開催

さて、会計年度任用職員制度が始まり、フタを開けてみると自治体間、職種間の格差や不合理なおきていることも見えてきました。そこで昨年は「知って得する学習交流会」を県内3か所で開催しました。今年も8

月21日に所沢におじゃましました。自分たちの雇用条件を知り、他地域の状況を知り、学んだことを持ち帰り、交渉につなげていき、処遇改善をめざしていきたいです。今年度はあと2回開催する予定です。

委託・指定管理の公共分野でもまずは自分たちの事業所の就業規則があることを知り、その就業規則がどうなっているのか確認することが大事であると、昨年学習会を開催し、就業規則の確認の仕方や問題などを学習しました。今年も秋に学習会を開催することになっています。

委託・指定管理で働く労働者も自治体の仕事をしている仲間です。自治体が民間企業等に丸投げをしている状況は少なくありません。自治体が責任を持ち、しっかり監視・管理をしてほしいことを訴えていきたいと思っています。

最後に

非正規職員や公共労働者が自ら声をあげていくことは難しい状況にあり、自分たちの立場がわからないでいる仲間がまだまだたくさんいます。そこで全国のみなさんをお願いします。

ぜひ近くにいる会計年度任用職員に声をかけ、公共の職場で働く職員に目を向けてください。その一歩が大きな前進につながっていくと私は信じています。私たちも、私たちの声を多くの仲間たちに届けられるよう活動を続けていきます。